

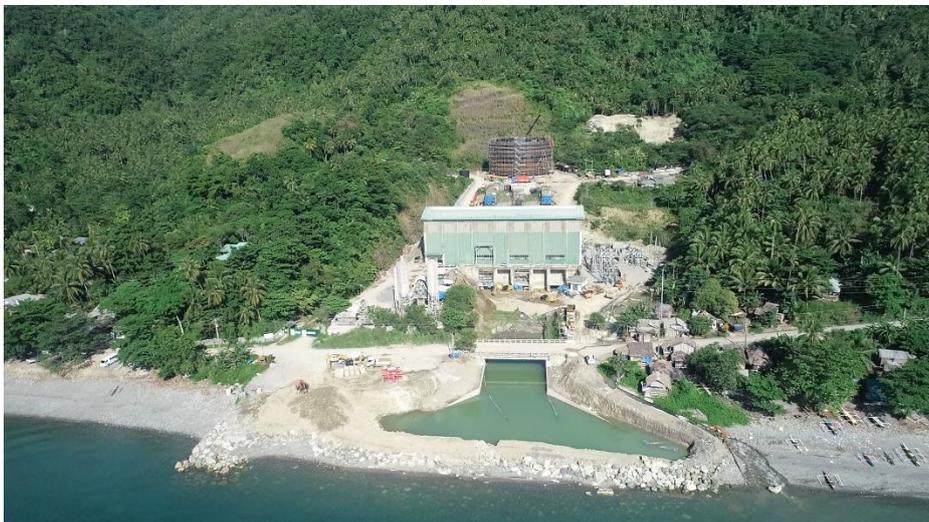
2022年12月19日  
電源開発株式会社

## フィリピン共和国ミンダナオ島水力発電事業に参画します

電源開発株式会社（以下「Jパワー」、本社：東京都中央区、代表取締役社長 社長執行役員：渡部肇史）は、フィリピン共和国（以下「同国」）の発電事業会社であるMarkham Resources Corporation（以下「MRC社」）から、MRC社の子会社株式の一部を取得することで、同国ミンダナオ島における水力発電事業に参画することになりました。

Jパワーは、MRC社が全株式を保有するLake Mainit Hydro Holdings Corporation（以下「LMHHC社」）およびMRC社が株式の95%を保有するBukidnon Hydro Energy Corporation（以下「BHEC社」）の株式をそれぞれ40%取得する予定です。

LMHHC社は、MRC社が全株式を保有するAgusan Power Corporation（以下「APC社」）を通じて、同国ミンダナオ島北部でLake Mainit（レイクマイニット）水力発電所（25,000kW）の建設を行っています。営業運転開始は2023年1月を予定しています。



建設中のレイクマイニット水力発電所

また、BHEC社は、同国ミンダナオ島北部でBulanog Batang（ブラノグバタン）水力発電所（33,500kW）の開発を進めています。

ミンダナオ島には未開発の水力地点が多く残されています。これらの開発を通じて、同島の電力供給を、その過半を占める化石燃料由来の電源からカーボンフリー電源へ

シフトすることに貢献することが期待されており、両プロジェクトはその一翼を担います。

MRC社は、同国で2014年に設立された、水力発電を中心とした再生可能エネルギー(以下「再エネ」)の開発・運営を行っている発電事業会社です。MRC社は、事業の更なる拡大のため、再エネ電源等の開発・運営経験を有するJパワーによる株式取得に合意し、Jパワーと共同で両プロジェクトを含む再エネプロジェクトの開発・運営を行うことになりました。なお、同社が進める再エネプロジェクトについて、Jパワーと優先的に開発を進めることで合意しています。

Jパワーグループは、2021年2月に公表したJ-POWER “BLUE MISSION 2050”に掲げるカーボンニュートラルの実現に向けて、国内外における再エネ事業の更なる拡大に取り組んでいきます。

<MRC (Markham Resources Corporation) 社>

・ 同国で水産業を主とするFrabelle社とTSP Marine社が共同で運営する発電事業会社

設立	2014年
親会社	<ul style="list-style-type: none"><li>Frabelle社(水産業を中心とするコングロマリット。冷蔵業、造船・建設、食品業等も手掛ける。)</li><li>TSP marine社(主は水産業。漁業、農業、ホテル、食品、教育、造船事業等も手掛ける)</li></ul>
事業	<ul style="list-style-type: none"><li>発電事業(運転中:水力3件、ディーゼル1件、建設中:水力3件)</li></ul>

【添付資料】

- 別紙1 レイクマイニット水力発電所・ブラノグバタン水力発電所について  
別紙2 Jパワーの再生可能エネルギーIPPプロジェクト一覧(海外)

以上